

新町・古町界隈

吉田松花堂

(平成7年9月指定)

景観形成建造物



所在地 新町4丁目1-48
建築年代 明治10~15年代
構造 木造2階建て
用途 町屋

(内部の見学などはできません)



新町周辺は、明治十年 西南の役によってほとんどの建物が焼失し、城下町としての景観を失っていました。この建物は、西南の役直後に建築され、道路沿いには長い土塀や格式のある玄関が見られ、西側は町家、東側は武家屋敷風に造られています。また、この屋敷は、熊本城下町に見られる最大級の町家であり、この通り一帯のランドマークとなっている建築物です。現在も、肥後の諸毒消丸を製造販売する由緒ある商家です。(諸毒消丸は48粒入り600円の伝承薬です。)

長崎次郎書店

(平成7年9月指定)

景観形成建造物



所在地 新町4丁目1-19
建築年代 大正13年7月
構造 木造2階建て
用途 店舗(書店)
設計者 保岡 勝也

新町周辺は、西南の役後、町が復興するにつれ侍町、町人町から商工都市へ変遷し、吉田松花堂(明治)、長崎次郎書店(大正)、文林堂(昭和)などの特徴的な建物が造られ、現在に至っても、城下町の面影が残っています。しかし、近年マンション等の中・高層建築物が数多く建設され、城下町としての趣きが失われつつあります。

この建物が醸し出す特徴的な色使いや模様(中国風)などは深い印象を与え、吉田松花堂とともに地域の住民のみならず多くの市民にとっての熊本の原風景となっています。

ピース・オレンジュリ (旧第一銀行熊本支店)

(平成11年3月指定)

景観形成建造物



所在地 中唐人町1番地
建築年代 大正8年
構造 RC造
地上2階・地下1階
用途 旧銀行店舗
(現在、ショールーム
研究所)
設計者 西村 好時 (よしとき)
施工者 清水組

(リニューアルされた内部)

大正8年に建てられた鉄筋コンクリート造2階建ての旧第一銀行熊本支店は、平成8年に取り壊しの危機にさらされましたが、熊本まちなみトラストの斡旋により、ピース株式会社の研究所として蘇りました。足下を流れる坪井川に架かる明治10年築造の石橋(明十橋)とともに唐人町の顔となっています。現在は室内気候調整機器メーカーのピース株式会社のショールーム・研究所として利用されています。また、ピース株式会社主催のチャリティ・コンサート等も開かれ、現役の建物として利用されています。建物名のオレンジュリとは、オレンジが快適に育つような気候環境の室内空間を持つ建物という意味で名付けられました。

塩胡椒

(平成13年12月指定)

ナチュラル&ハーモニック・ピュアリィ

景観形成建造物



塩胡椒
所在地 中唐人町13・14
建築年代 明治初期
構造 木造2階建て地下1階
用途 フレンチレストラン
電話 096-322-8487

ナチュラル&ハーモニック・ピュアリィ
中唐人町15
明治初期
木造2階建て地下1階
オーガニック専門ショッピングモール
096-354-6141

フレンチレストラン塩胡椒、ナチュラル&ハーモニック・ピュアリィは、坪井川を背にしており、南側の道路から平入りの木造2階建ての伝統的町屋です。道路側の開口部には、木製の縦格子が連続して取り付けられ、水平線が強調されたデザインとなっています。また、軒の高さや、屋根の勾配が地域の建物とそろっているため、町並みによく調和しています。

塩胡椒及びナチュラル&ハーモニック・ピュアリィは、既存の町屋で和食のお店や喫茶店として営業していたものを買い取り、一部改造してレストラン等として活用したもので、道路側から見ると2階建てですが、坪井川側から見ると3階建てという不思議な空間となっています。特に船着場を改造した半地下のレストランバーは、坪井川に面した、落ち着いた居心地良い空間となっています。

西村邸

(平成13年12月景観形成建造物指定)

(平成22年2月景観重要建造物へ移行)

景観重要建造物

所在地 西唐人町10
建築年代 大正6年
構造 木造2階建て
用途 町屋(住宅)

(内部の見学などはできません)

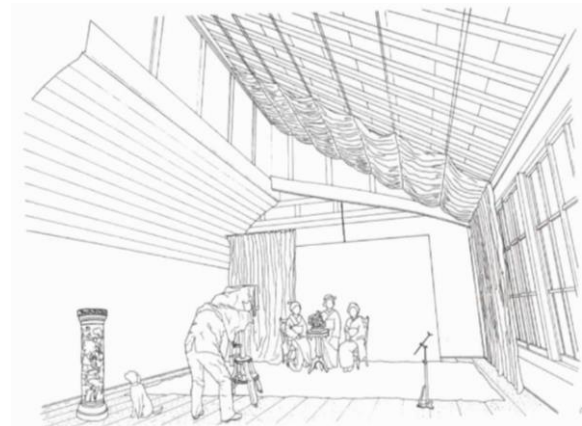


西村邸は、明八橋そばの坪井川沿いにあり、南側の道路に面して倉庫が設けられ、北側の坪井川に面して住宅が建てられています。住宅は木造2階建てで住宅内部の床、壁、天井に数奇屋風の意匠が使われています。また、もともと油商であったためか、敷地の東西の煉瓦造の防火壁に特徴があり、特に東側は2階建ての外観にあわせた煉瓦壁となっています。

景観形成建造物



所在地 新町2丁目8-5
 建築年代 明治10年頃
 構造 木造2階建て
 用途 写真スタジオ



<明治10年(1877年)復元模型>

<富重写真所資料調査報告書 平成10年度 熊本県教育委員会 資料より>

<スタジオ2階 推定内観図>

創業者の富重利平氏は、日本における写真の開祖の一人である長崎の上野彦馬のもとを辞した後、福岡県柳川町から数度場所を替え、現在の新町2丁目に明治9年に開業しましたが、明治10年の西南戦争により消滅し、償権を余儀なくされました。

富重写真所旧スタジオは、木造2階、和小屋組、縦板貼りの建築となっています。当スタジオは、2階撮影場、南側のR状の壁面が特徴で、北側のスラント（当時はガラス屋根、現在は瓦屋根）を透過した光をいったん床に当てパウンドさせた光を再度、R状の壁面で捉え被写体を照らし、立体感を作り出す仕組みとなっているようです。このような当時の趣が残る機材や写真が数多く残されています。

また、坪井川に架かる万歳橋から望む富重写真所は、熊本の歴史を感じさせる貴重な建物です。

(株)野田市兵衛商店

(平成 24 年 1 月指定)

景観形成建造物



所在地 辛島町 8-21
建築年代 明治 40 年
構造 木造 2 階建て
用途 事務所



昭和 20 年代

明治 11 年初代野田市兵衛は、福岡県三潴郡より、熊本市小沢町へ移り、馬具商を創業。西南の役から戦災の復興を遂げながら、明治 19 年には鍛冶屋町の酒造家の跡を買い取り、履物屋や醤油醸造業を営まれ、明治 40 年に現在の辛島町へ移る。その後、株式会社野田市兵衛商店として様々な事業展開を営まれ、創業 130 年の歴史がある。

この建物は、屋根は入母屋造りで、屋根庇を受ける腕木や漆喰壁や木枠の窓が、明治 40 年当時の姿をそのまま残し、野田市兵衛商店の称号である看板は、昭和 20 年代当時の看板のままである。

このように、辛島町に古いたたずまいを残し、歴史を感じさせる町並みの景観を特徴付けている。